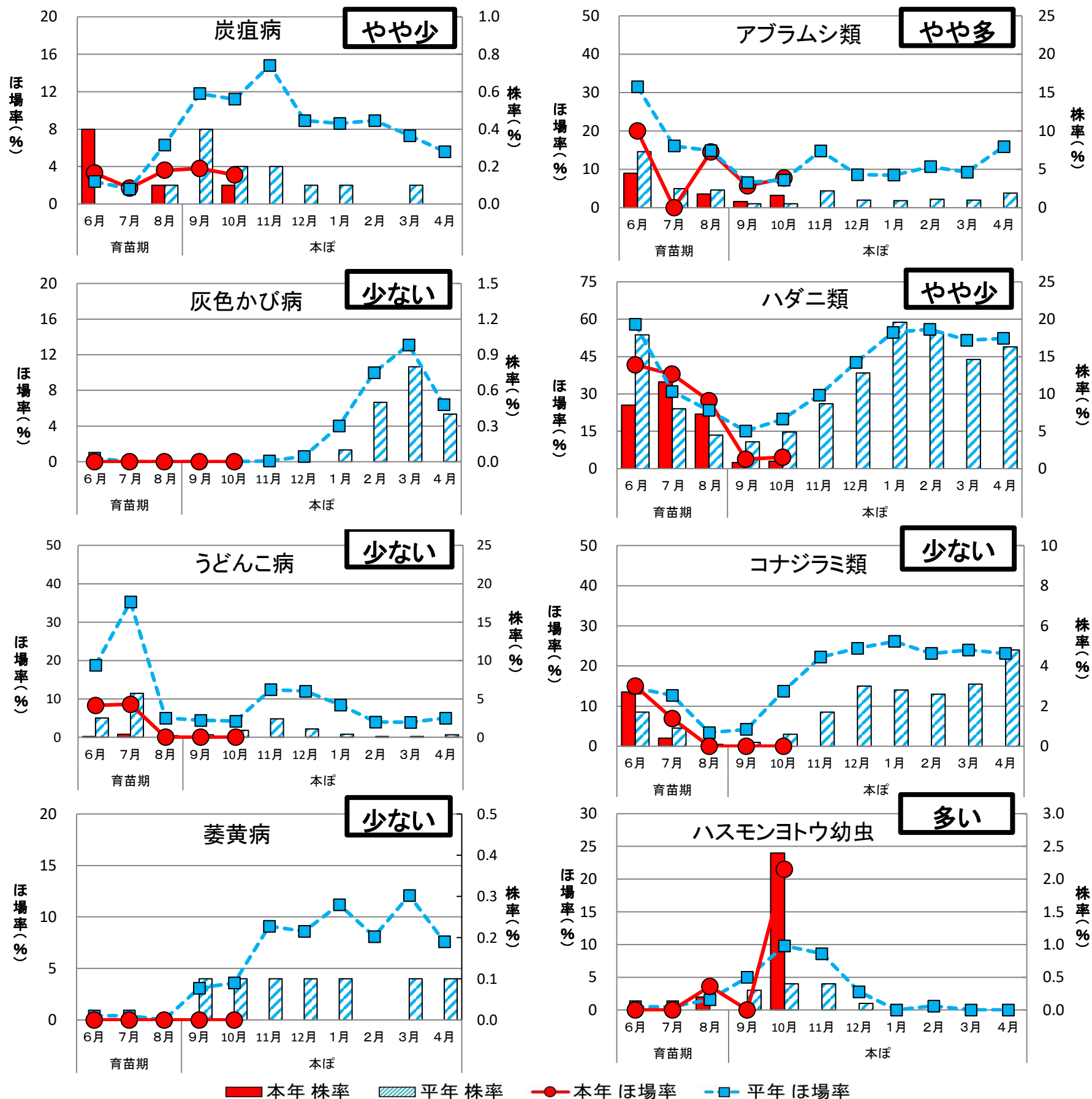


■ 病害虫の発生状況 【総調査ほ場数：65 箇所】



※ほ場あたり25株調査 ※株率(%):発生株数/調査ほ場数×25株 ※ほ場率(%):発生が確認されたほ場数/調査ほ場数

■ 今月の防除ポイント

ー ハスモンヨトウの対策 ー

10月の調査では、ハスモンヨトウの発生が多く確認されました。よくほ場を観察し、発生初期の段階で防除を行いましょう。

- 1 定期的にはほ場を観察して早期発見に努め、卵塊や分散前の幼虫を寄生葉とともに摘み取り処分する。施設のパイプ、ネット等の資材にも産卵することもあるので注意して観察する。
- 2 幼虫の齢期が進むと薬剤が効きにくくなるので、発生初期の若齢幼虫のうちに薬剤防除を行う。
- 3 ほ場周辺の雑草は発生源になるため、雑草管理を徹底する。

■ 今月のトピックス アザミウマ類

いちごに寄生するアザミウマ類

アザミウマ類は様々な作物に寄生する小さな昆虫で、いちご栽培においても重要な害虫となっています。県内いちご栽培ほ場における主要種はヒラズハナアザミウマ（写真1）で、ハナアザミウマ（写真2）やミカンキイロアザミウマ（写真3）も見られます。体長はいずれの種も1～2mmで、現場での種の識別は困難です。

アザミウマ類の発生を確認するには、ルーペでの観察の他、白い紙等の上で花を軽く叩く方法があります。アザミウマ類が発生していれば、花を叩くと紡錘形で褐色または淡黄色の小さな虫が紙の上に落ち、観察することができます。



写真1 ヒラズハナアザミウマ成虫



写真2 ハナアザミウマ成虫



写真3 ミカンキイロアザミウマ成虫

アザミウマ類の被害

アザミウマ類は主にいちごの花に寄生し、花床を食害します（写真4）。成虫、幼虫が多数寄生すると、食害を受けた花は黒褐色に変色し、不稔になります（写真5）。果実が肥大した場合でも、幼虫が果皮を食害し、そう果（種に見える部分）の周囲を残して表面が褐変し、商品価値が低下します（写真6）。



写真4 寄生花
（赤円がアザミウマ成虫）



写真5 花の被害



写真6 果実の被害

アザミウマ類の防除

野外のアザミウマ類は10月頃まで活発に動き回ります。そのため、10月中旬までに開花が進んでいるほ場では、アザミウマ類の飛び込みが多くなる傾向にあります。本年度は高温期が続いたため、平年より雑草が多く繁茂し、アザミウマ類の飛び込みが増えるおそれがあります。施設周辺の除草を徹底しましょう。

施設内で観察した花の1割以上にアザミウマ類が発見された場合、速やかな防除が必要です。よくほ場を見回り、発生初期のうちに防除しましょう。

秋に被害が発生したハウスでは、2月頃からの被害発生に注意しましょう。